

不安を安心にかえる

きずな通信

第17号 2023年1月



謹賀新年

理事長 平川 利人



皆さん、新年明けましておめでとうございます。2023年(令和5年)は十二支の4番目・卯年にあたります。昨年来続くロシア・ウクライナ戦争、これに起因したエネルギー価格や食料品価格の高騰、また金利差益を求めて国際間を駆け巡る巨額の投機資金が円安を招き、この円安が輸入品価格の高騰に拍車をかけています。一方、ここ約30年近く我国では勤労者の賃金が上がらず、社会保障負担等の支出が増加する中、私たちの可処分所得は減少を続け、家計を圧迫しています。また、新型コロナ感染は第8波に突入し収束の見通しは依然立っていません。何かと暗い世相が続きますが、明るい話題もあります。神戸ゆかりのプロ野球球団・オリックスが日本一になったこと、サッカーW杯で日本が優勝経験のあるドイツ、スペインに勝ち日本中を元気にしてくれたこと(8強入りは4年後以降の目標になりましたが)等です。私たちも、この元気をバネに引き続き「利他の精神」を持って成年後見活動を続けていきたいと思います。卯年にあやかって、私たちも新たなステージへ飛躍できる良い年にしたいですね。

以下、2023年以降、新たな成年後見需要への対応を含めて、当法人が今後取り組むべき課題と解決案を年頭の所信として申し述べたいと思います。

先ず第1に「ヒトの確保」です。NPOの継続的かつ活発な活動のためには、しっかりした事務局が必要です。当法人の事務局はかなり充実してきましたが、将来的に事務処理能力が高く若い常勤職員の配置が望まれます。また、

後見活動にあたる支援員を確保することが緊要の課題になっています。このため、支援スタッフ一人が新たなスタッフを少なくとも一人確保する、行政と連携して適材を探す、他団体の機関誌・まちコミ紙、SNSなど各種広報媒体で適材を募る等の取り組みを継続したいと思います。

第2に「カネの確保」です。活動資金は幾らあっても過ぎるということはありません。多種多様な手法を用いて活動資金を確保したいと思います。活動資金があれば人財の確保は勿論、被後見人等の利益に還元することが可能になります。このため、認定NPO法人となってクラウドファンディングなどの手法で企業等からの寄付金を募る、行政・公益団体等の助成制度を活用する、行政・企業等から事業を受託する(収益事業)等の方策を検討していきます。NPOは収益事業を営むことができます。

第3に、「モノの確保」です。このため、公益団体等の助成制度を活用する、ご本人のプライバシーが守れるような相談コーナー(仮称)を確保する等の方策に取り組みます。

第4に、これは私見ですが、「中間支援NPOとなって新たな成年後見NPOを育て」、「彼らと分担して新たな後見需要に応える」よう仕掛けていきたいと思っています。仲間のNPOを育てるためには相当な時間と労力を要すると思いますので中長期的な課題として取り組んでいきたいと考えています。

いずれも、今後、法人として議論を重ね具現化していくべき課題ですが、関係各位の皆さまのご協力・ご支援が不可欠です。ご協力・ご支援を宜しくお願い致します。

いずれも、今後、法人として議論を重ね具現化していくべき課題ですが、関係各位の皆さまのご協力・ご支援が不可欠です。ご協力・ご支援を宜しくお願い致します。



理事・サポーター研修

2022年度サポーター・理事研修会が11月28日に23名の参加を得て実施されました。第一部は講演会、第二部で後見業務マニュアルの徹底その他事務連絡のあと、参加者をグループ分けしてKJ法を用いた意見交換会が行われました。

《講演の概要をお伝えします》

講演「高齢者、障害者の方々への関わり方のポイント～事例を紹介しながら～」

講師 福山さやか氏

訪問介護事業所 complete 管理者



福山さんはこの道25年以上のエキスパートで、介護ヘルパーのお仕事を天職として楽しまれていると仰るとおり、明るく情熱的で魅力的な女性でした。

さて、福山さんが行動の指針としておられることが五つあります。

①常に考える、②疑問を持ち、解決する、③普通を捨てる～自分の中の常識を捨てる～利用者さんにとっての普通を共有する、④笑顔にこだわる、⑤すべてはコミュニケーション

これらの指針をモットーとしモチベーションとして活動してこられた福山さんですが、これまでの人生で、忘れることのできない3名の方の言葉から大きな影響を受けたといいます。

1 最初の職場であるリハビリ病院の上司でもあった看護師長さんに専門職意識を注入され、猛勉強に励み、プロとしての土台を築いた。

2 尼崎で訪問介護施設の立ち上げに奔走し、苦悩していたころ出会った成年後見組織の代表者の言葉「自分の人生の専門家は自分だ」という名言に打たれた。

3 その人のために良かれと信じてする行動に対し、わきまへの美学を忠告される～その人たちの実力を邪魔しないこと

また、仕事の中で出会った、忘れることのできない利用者さんとのエピソードが紹介されました。

Aさんは、くも膜下出血でリハビリ中の入院患者さんですが、同室の患者さんが困っている様子を見ると放っておけなくて手伝ったり助けたりするのです。

医療現場では危険行為として問題になったの

ですが、その人のこれまでの生き様や歴史を理解する（ハビトゥス）ことで、頭ごなしに注意するばかりでなく、行動を温かく見守れるようになった。

Bさんは、寝たきりで認知症の女性患者さんだったが、暴言と暴力に耐えられず脱落するヘルパーが相次いだ。あなたのことをもっと知りたいという気持ちを相手に伝えることによって信頼関係が生まれ、一方的だった関係から双方向の関係になり、車椅子を利用する穏やかな日々が始まった。結局、これまでのヘルパーさんのおさなりの仕事ぶりが往年のやり手ママに見透かされていたのだ。

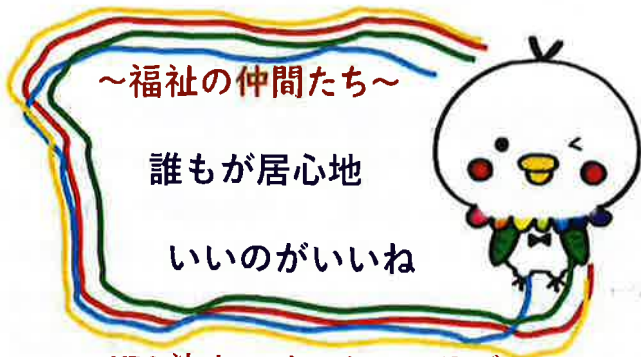
余命1週間といわれている男性Cさんとの最初の出会い（インテイク）では、ヘルパーが先回りして介護を進めるのではなく、頭脳明晰な本人の意思ですべて決めてもらうことにした。すると、少しずつ明日のこと、将来のことを話し始めるようになり、1週間といわれた余命が3月になり、半年になり、やがて1年となった。末期のCさんの言葉は、「死を待つのではなく、ヘルパーさんを待つ毎日だった」……ヘルパー冥利とはこういうことを言うのでしょうか。

福山さんの講演から得た「プロの仕事」とは、自分と相手の気持ちが一体となること、という学びでした。

成年後見に携わる私たちも、正解のない場面に出くわすことがあります。そんなときには、福山さんが利用者さんに正面からまっすぐに向き合ってきた姿勢をよすがとしたいと思います。

(文責 広報部)

KJ法：情報・アイデアを効率的に整理する目的で用いられる手法。



NPO 法人 インクルひろば
代表 松岡 喜久子

神戸市の北区で月～土曜まで毎日開いている共生型常設型の居場所です。古いUR賃貸住宅が林立しており、神戸市の中でも高齢化率が高く、独り暮らしの方が多いい街です。

2017年の冬から、子どもや高齢者、障がいのある人等いろいろな社会的な課題を抱えた人たちが安心してつどい、やさしい気持ちで過ごせる、そして年代や立場を超えて地域住民が交流できるインクルーシブな居場所を創造することを目指して日々活動しています。

活動の中心は、誰かと一緒にごはんを食べることができるインクルカフェを料理好きの高齢者を中心にボランティアで運営。「うたごえ喫茶」「えほんの時間」など赤ちゃんから高齢者まで楽しめるイベントも開催。カフェに来て、ご飯を食べて、会話を楽しみ元気になり帰っていくという中で交流が生まれます。毎週木曜日の夜は、「クルタン食堂」元気な子供たちの声が響きます。

昨年8月から、子育て中の家庭を応援する「フードパントリー」を週3回開催。時には地域の人

が楽しめるおまつりも行います。手づくりのお化け屋敷を行ったことも。

コロナ禍では、一緒にご飯を食べることは断念せざるをえず、2019年から地域包括支援センターと連携して、高齢者等の見守りを兼ねて、地元の野菜を調理した「野菜いっぱい弁当」を宅配。昼と夕に1日80食ほど届けています。その多くは独り暮らしの高齢者です。また、身の回りのちょっとしたお困りごとをお手伝いする地域助け合いサービスを開始。買い物・ゴミ捨て・お掃除など、30分から60分のお手伝い。地域包括支援センターと連携して生活支援を行っています。

インクルひろばは、様々な多様な人の居場所です。誰かの役に立ちたい、まだもう少し働きたい、誰かと話をしたい、楽しい時間をすごしたい、いろいろな思いがある中で共通しているのは誰もが居心地のいい場所を求めていること、気兼ねない場所であることだと感じています。参加する人の得意とする所と思いやりが集って、居場所は運営されています。誰かが一方的にしてもらう関係にならず継続的に活動

できるバランスの取れた利用料金を考えて設定し活動しています。

地域の方にささえられながら、これからも地域に根差した活動を継続したいと考えています。

HP 検索 [インクルひろば](#)



ボランティア募集

お電話お待ちしております

私たちと一緒に 知的障がいの方が豊かに暮らせるお手伝いをしませんか

- 1 資格 特に必要ありません。
- 2 活動費 当法人規定により支給致します。
- 3 活動内容

成年後見活動とは、知的障がい、精神障がいや認知症などで判断能力が十分でない人の身上監護（福祉や医療サービスの契約等）や財産管理をご本人に代わって行う活動です。神戸家庭裁判所の監督のもとに活動しています。

kobe-kizuna01@jcom.zaq.ne.jp

Tel: 078-777-8051





つれづれに…

当法人は北区西鈴蘭台にあります。むかし、鈴蘭台辺りは関西の軽井沢と言われている、別荘地としてとても素敵なおところだったそうです。しかしながら、別荘地であるが故に坂が多く、キツイ。高齢者にはお薦めできない所になってしまったようです。私は、きずなに関わって8年程ですが、西宮の自宅からは電車・バスで通っています。一つ目の通勤ルートとして、新開地から神戸電鉄を利用します。電車が山間を縫うようにして登り、西鈴蘭台駅に到着します。標高は約300m、気圧の変化の影響で途中耳がおかしくなります。でも、車窓から見える初夏の新緑、秋の紅葉と、ちょっとした旅行気分を味わうことが出来ます。次に2つ目のルートとして、三宮からバスに乗ってしあわせの村経由で行くルートです。しあわせの村には神戸明生園という重度知的障がい者の入所施設があり、そちらの利用者さんお2人を支援させて頂いている関係で時々おとずれています。しあわせの村には、障がい者施設、老人介護施設等の施設と共に、神戸市民の憩いとスポーツ活動のための様々な施設があります。

草花や樹々が季節によって色とりどり変化して行きます。施設の利用者さん達も、良い季節の時は散策を楽しんでおられます。施設訪問時のついでにしあわせの村のマルシェで新鮮で安い野菜を買い、自然の景色を愛でるという贅沢な時間を過ごさせて頂いています。今はコロナ禍で、訪問できないのがとても残念です。 理事 米田 成己



やまぶき号がやってきました ♪♪♪♪

待ちに待った自動車ダイハツタント

「やまぶき号」が、2022年2月にきずなにやってきました

た。後見活動に自動車があればと

いう長年の夢が、神戸やまぶき財団の

ご厚意によって実現しました。施設やグループホームでの緊急時の対応だけでなく、家庭裁判所や区役所での業務に毎日

活躍しています。コロナ禍にあっても、暑い日も寒い日も遅

く元気に走ってくれるでしょう。いただきました神戸やま

ぶき財団に心より感謝申し上げます。 **タントグラッチェ!!**



編集後記

うさぎ年の幕開けとなりました。近年、少子高齢化がますます加速するなか NPO法人こうべきずなが果たす役割は、これまでも増して、大きなものとなっています。被後見人である知的障害者が、本年も、日々、健やかに過ごせますように、うさぎ年にあやかり、ピョンピョンとフットワーク軽く飛躍しましょう。こうべきずなが風通し良く、前向きに、スピード感を持って、被後見人の幸せな生活を維持するために、取り組んで行きたいものです。K. T

NPO 法人 成年後見・こうべきずな

〒651-1132 神戸市北区南五葉1丁目1番1-105号

TEL (078) 777-8051 FAX (078) 778-9850 HP : 成年後見・こうべきずな で検索

Mail kobe_kizuna01@jcom.zaq.ne.jp